ゆうことみゆきの
なるほど
アイヌ文化エッセイ

ソンコ de ソンコ

Vol.148

アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソンコ(=お便り)形式のエッセイです。

今月のテーマ

マキリ(小刀)

村木美幸(アイヌ民族文化財団副理事長)

小刀をアイヌ語でマキリといい、木製の柄に鉄製の刃、刃を収める鞘(さや)からなり、鞘には携帯するための下げ紐や根付が付されます。柄鞘には主にクルミやイタヤカエデが使われ、鹿角や獣骨が部分的に使われるものの他、鞘には獣皮や魚皮などの革製のものや桜皮製のものもみられます。鞘に柄を差し込む形のもので、柄が鞘口をふさぐ栓のように固定されます。長さは三十(チセン)前後のものから二十(チセン)に満たないものまでサイズもさまざまです。マキリ全体が緩やかに反り、線刻や鱗(うろこ)彫り、透かし彫りなど手の込んだ彫文様が施されたものが多く、実用性と芸術性を兼ね備えた利器のひとつです。

狩猟や漁労など日常のあらゆるシーンで使われてきたマキリは、用途によって呼び方もいろいろ。スケマキリ(炊事用小刀)は、食材を切る、さばく、刻む、叩くなど調理全般に使う片刃の万能マキリ。イナウケマキリ(木幣を削る小刀)は、カムイ(神々)への土産となるイナウを削るマキリで、刃先が鋭角な片刃の切り出し型。刃先にマキリエウシペ(小刀に刺すもの)という木片を付け、手前に引くことで削り掛けがクルクル巻かれた美しいイナウがつくられます。動物の皮を剥ぐのに用いるイリマキリ(皮剥ぎ用小刀)は、少し反りのある大振りなマキリ。レウケマキリ(曲がった小刀)は、器や盆などの内側を削る、刳(えぐ)るなどするため刃先を曲げたもの。マキリの刃先を火で焙り焼きを入れて、曲げたり、伸ばしたりと用途に合わせてカスタマイズすることもあったとのこと。小ぶりで彫文様が美しいメノコマキリ(女性用小刀)は、皮を剥ぎ、布を裁ち、炊事などに用いる他、護身用でもあったといいます。

イラスト/山丸ケニ

サハリンでは、日常遣いのマキリの鞘は実用的な革製のものが多く、装飾の無いものでしたが、正装する際には彫文様の美しい木製のマキリを下げたといいます。女性用のイピリケ(ものを裂くもの)と呼ばれるマキリは、短い刃に不釣合いなほど大振りの鞘で鞘尻が扇形をした特徴的な形で、組紐文様など美しい彫文様が施されます。

かつて男性は、好きな女性ができると丹精込めてつくったマキリを贈って告白し、そのマキリを女性が腰に下げてくれればプロポーズが成功。女性たちはマキリの出来栄えを見て、男性の技量、魅力を計ったとのこと。メノコマキリが特に大切に扱われた理由ですね。 J

次回のテーマは「ケトゥペ(ハリガネムシ)」
本田優子(札幌大学教授)が担当します。

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分

ウポポイPRキャラクター
「トゥレッポん」

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団副理事長。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■山丸ケニ(やまるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。

イランカラプテ
「こんにちは」からはじめよう。